

日本オーソモレキュラー医学会

オーソモレキュラー 医学の最新動向

主催 一般社団法人
日本オーソモレキュラー医学会

定員 70名 (先着順)

参加費 [医師]
会員: 10,000円 / 一般: 15,000円
同伴: 5,000円 (コメディカル限定)

[ヘルスケア従事者]
会員: 5,000円 / 一般: 10,000円
※テキスト・昼食含む

日時 2022年 **5月15日** 日 10:00~17:10 (受付開始9:30~) 【予定】

会場 品川フロントビル会議室
〒108-0075 東京都港区港南2-3-13 品川フロントビルB1F

【予定スケジュール】

10:10	11:10	11:30	12:30	13:30	14:30	14:50	15:50	16:00	17:00
Lecture 1	休憩	Lecture 2	ランチョンセミナー	Lecture 3	休憩	Lecture 4		Lecture 5	
開会の挨拶 10:00~10:10				閉会の挨拶 17:00~17:10					

Lecture 1

新型コロナ感染後遺症とワクチン副反応
~オーソモレキュラー栄養医学による治療と予防

新型コロナ後遺症ならびにワクチン副反応慢性期は、いずれも長期に渡る倦怠感と疲労、頭痛、睡眠障害、味覚・嗅覚障害、呼吸困難、多岐に渡り、一般的な対症療法では限界がある。
講演ではオーソモレキュラー栄養医学からアプローチするコロナ感染後遺症とワクチン副反応慢性期の治療と予防について最新情報を解説する。




講師: 柳澤 厚生
国際オーソモレキュラー医学会 会長

Lecture 2

QOL向上・予防医学では機能性食品がキープレイヤー

2025年問題にて最も注目されるのは「高齢者フレイル」といわれるが、フレイル(虚弱)を高齢者に限定せず、メカニズム別・臓器別に考察すると「オール世代フレイル」が見えてくる。例えば「免疫フレイル」が起これば感染症発症及び重症化し易くなる。「傾向」から「対策」が出来る。
今こそ機能性食品の研究開発が生きる時である。



講師: 矢澤 一良
早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 機能科学総合研究所ヘルスフード科学部門 部門長

Lecture 3

西洋医学は自然科学、東洋医学は自然哲学
~“人”を診る漢方医療が如何に大切か~

東洋医学は、四診(望診、聞診、問診、切診)といわれる東洋医学的診察法などから、全体・局所的にも診察を行い、経験を基に主観的に判断し、治療・予防をしていく医学です。
人生100年時代これからの医療は「未病」「予防」の観点がより重要視されていく中、漢方歴27年の経験から東洋医学と西洋医学の融合がなぜ必要なのかを紐解く。



講師: 久保田 佳代
株式会社氣生 代表取締役 漢方薬剤師

Lecture 4

スーパーフード、現在のトレンドと活用

コロナ渦で人々が免疫力の強化のための食事を意識するようになり、在宅医療分野でも、薬物療法の前に栄養状況の改善が重要というコンセンサスがなされ、生活習慣病の予防や治療の補助として、食品が持つ機能性については、日々研究更新されつつある。
今回はスーパーフードの現在のトレンドとその活用について紹介する。



講師: 井手口 直子
帝京平成大学 薬学部 教授

Lecture 5

オーソモレキュラーは「諸刃の剣」か?

オーソモレキュラー療法は、至適量の栄養素を摂取し病態改善させるものである。至適量を達成させるためには食事だけでなくサプリメントを積極的に活用するものである。
近年になり、SNSを通して多くの情報を得られるようになり、処理できない量のサプリメントを摂取し健康被害が生じていることについて問題提起する。



講師: 溝口 徹
医療法人回生會 みぞぐちクリニック 院長

